

説明を聞きながら阿蘇外輪や、阿蘇谷の雄大な景観をお楽しみになった。

ついで、文部省木田社会教育局長のご先導で、国立阿蘇青年の家をご視察。研修生たちの交換討議やコーラスに、ご熱心に耳を傾けられたのち、午後五時五分、ご宿舎の阿蘇観光ホテルに入られ寺本知事が県勢についてご説明申上げた。

第二日目 十月二十八日

万歳、両陛下―五橋完成後、初めての行幸啓に、天草全土は喜びに沸いた。そして乳牛展示場で、天草の人たちは人間天皇を身近かに感じとった。

午後九時二十九分、ご宿舎をたれたた陛下は、赤水駅から特別列車で午前一時五十分三角駅にお着きになり、奉迎者の歓迎の中を、お車で一号橋ぎわのパーリン観光ホテルにお入りになった。

同ホテルで、県の研究所の展示品をご覧になり、またベランダから富樫道路公団総裁の説明をお聞きになりながら銀白色に輝く一号橋をご覧になったあと、同ホテルをたれたた陛下は、大矢野町近郊の町民がお待ちする大矢野町の乳牛展示場にご到着。天皇陛下は二〇頭の乳牛の頭一頭のハナをなでられ、この光景を喜んだ奉迎者からは、期せずして万歳と拍手のどよめきが起こるなど、素晴らしい歓迎風景が現出したときであった。

ついで、両陛下は熊大臨海実験所にご

到着。天皇陛下は、「学者天皇」そのままに、顕微鏡でご専門の腔腸類の標本をくいているようにおのぞきになった。

このあと、午後三時二五分、合津港から特別船初姫丸にご乗船。富樫道路公団総裁と寺本知事の説明で、海上から五橋をご覧になり、三角港にご到着。この間島々の渚には、日の丸の小旗を手にした人たちが並び、天草ならではの歓迎風景だった。特別列車で午後五時二六分、熊本駅に着かれた両陛下は、お車でご宿舎のホテルキャッスルにお入りになった。

第三日目 十月二十九日

またの行幸啓を―両陛下は二泊三日の熊本ご旅行を終えられ、帰京の途につかれた。両陛下に別れを惜しみ、ご健祥を祈る人の波は沿道に続いた。

午前九時四二分、ご宿舎をたれたた陛下は、午前一〇時、熊本駅から特別列車で福岡へ向われ、福岡空航から特別機で帰京された。



つつがなく熊本の旅を終えられて

えられる三太郎峠にもたんだんたる隧道が貫通し、鹿児島熊本間は自動車で四時間の行程になりました。

九州縦貫高速道路は、本年度から福岡熊本間約一〇〇kmの建設に着手することになり、先月十六日に、中心線杭打式を取り行ないました。宮崎熊本両県を結ぶ各種道路、有明航送船により長崎県と本県北部を結ぶ道路等も、逐次整備されてまいりました。九州本土と離島天草を結ぶ架橋は、明日ご視察を仰ぐ予定でございます。また天草島内その他、緊急に整備を要する道路が沢山残っておりますが、前回御出ましの頃に較べますと、県内の道路は面目を一新していると思えます。

鉄道につきましては、鹿児島本線の電化、複線化を促進して参りましたが、熊本以北は昨年電化を終り、複線化工事も明年度中には、完了する予定であります。熊本以南につきましても、引き続き電化複線化を促進致すよう努力しております。港湾につきましては、八代港を工業港として整備して参りました外、三角、水俣、本渡等の各港湾を整備して参りました。空港につきましては、これまで使用してきました熊本市外の健軍空港が手狭になりましたので、目下それより七・五km東方に在ります高遊原台地に、大型空港を建設すべく努力致しております。

従来、東京大阪等の消費地への輸送はもとより、九州域内における交通にも、兎角支障の多い事が、本県の産業立地の欠陥でございましたが、多年に亘る県民の努力とこれに対する政府の援助とにより、そのような欠陥が逐次除去されつつあります。喜びに堪えない所であります。

安定農業の実現へ

次に農業について申し上げます。

宅地造成、工場用地、道路敷等の為、一般的には水田の潰れ地が目立っておりますにもかかわらず、本県においては、干拓工事の完成、深層地下水による畑地の水田化の進捗等により、水田が増加しつつありましてその総面積は約七万六、〇〇〇haに達し、米の生産は例年三〇万tを上廻っております。特に本年は、県民の米作りに対する意欲が極めて旺盛で、一部に早ばつの被害はありましたが、全般的には、降雨日照の具合も良く、台風にも見舞われず、作況指数は一二〇に達し、三五万t台の収穫が見込まれております。供出予約も二〇万tという空前の数量に達しました。国が年間一五億tに昇る多額の食料品を輸入しつつある現況に鑑みますれば、国家的に寄与する所も少なくないと確信するものであります。

畜産、果樹につきましては、国が農業に於ける生長期門として、奨励している所でありまして、本県は、その生産条件に恵まれておりますので、特に力を入れて参りました。然しながら、近年農業の機械化に伴い、役牛を使用する者が激減致しました為、従来、役牛兼用として知られ、一時は一〇万頭を越えておりました肥後の赤牛は漸次減少し、現在では約八万頭になっております。乳牛は約三万頭に達し、依然九州第一位であります。その一部は、明日天草大矢野島で御視察を仰ぎたいと存じております。熊本県は阿蘇一帯を中心として、約六万haの草原を有

し、現在迄そのうち二、〇〇〇haの牧野改良を行ないました。その中には、一昨年の農業祭で天皇杯を頂きました麻生釣牧場のように、スイスの牧野に劣らぬ優秀な牧野も含まれております。本年から五カ年計画で更に、一、七〇〇haの大規模草地改良を行ない、昭和四十五年度には乳牛四万五、〇〇〇頭、肉牛一三万五、〇〇〇頭まで増加させ、国家の要請に応える所存でございます。

本県の樹園地は、現在一万九、〇〇〇haで最近の五カ年間に、約三倍に増加して参りました。その内、柑橘類は、気候風土共に、最も本県に適し、その栽培面積は、約一万三、〇〇〇ha、本年の生産量は、約八万tの見込であります。昭和四十五年度には、約二〇万tに達する予定であります。生産過剰になる万一の場合に備えて、各種の加工工場を誘致すると共に、生産費の引下げに努め、産地間の競争に堪え抜く態勢を整えつつあります。柑橘類は、現在輸出農産物としても、漸次重要性を加えつつありますので、その面でも貢献したい所存でございます。

進む県産品の工業化

次に工業について申し上げます。

昭和三十六年、両陛下が雲仙から有明航送船經由で、本県を御通過になりました際海底に埋蔵される砂鉄を原料とする製鉄事業の計画について申し上げます。有明製鉄に於ては、予定の通り熊本市に実験工場を開設し、県は本工場の予定地として、長洲地先に五万坪の埋立地を造成致しました。実験工場は、国体の際、熊本大学工学部が奏上したラテライ

トの製錬にも通ずるものとして期待され、その後相当の成果を納めたのでありましたが、海底砂鉄採取のコストは、当初計画よりも割高となり、他面濠洲その他の海外からは、割安の鉄鉱石が輸入されるようになり、有明製鉄による砂鉄製錬は、企業採算のベースに乗り得ないものとして、放棄されるに至りました。実験工場は、本年二月末日を以て閉鎖され、県が造成した埋立地は親会社八幡製鉄が引取ることになりました。五年前申上げました計画が、実現出来なかつた事につき、謹んで御詫び申し上げます。

昭和三十九年四月、県が指定を受けました新産都市の内、有明地区は、有明製鉄の創立と、大牟田にある三井グループの南進に期待したものでありましたが、有明製鉄は中止となり、三井グループの南進は、停滞しておりますため、目下のところ、この地域には、新産都市に相応しい進展はございません。長洲工業用地は、港湾背後地並びに工業用水にも恵まれておりますので、砂鉄製錬に代る工場を誘致すべく研究を続けているところであります。不知火地域は、八代市に於ける工業地作りが中心でございますが、ここでは、七十五万坪の工場用地、毎秒五・五屯の工業用水、工業港として必要な岸壁等、すべての条件が整備されつつありまして、その一部につき、既に石油各社の配分基地の進出等が決定しております。我が国最南端の然も大陸の方に向った唯一の新産都市でありますから、県としてはじっくり腰を落ち着けて、これが育成と取組んで参る所存であります。

昭和三十五年以降県内に立地した企業は、食料品